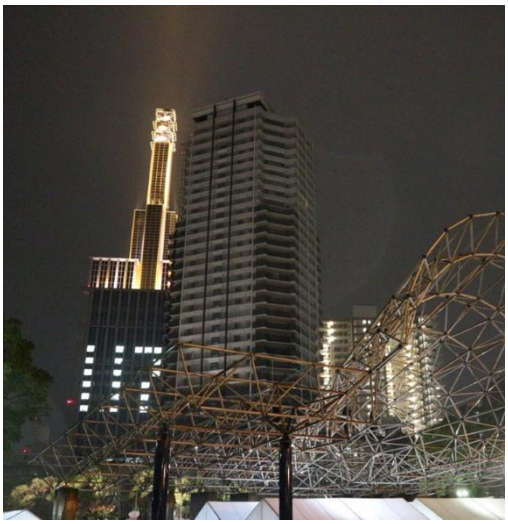
ボランティア活動報告 2017

東日本大震災被災者神戸招へい事業 2018　～2 日目～

２日目となる１月 17 日は、23 年前に阪神・淡路大震災が起きた日でした。震災が起きた午前 5 時 46 分に、私たちは東遊園地で行われた阪神・淡路大震災 1.17 のつどいに参加し、黙とうをささげました。雨で足元の悪い中にも関わらず、制服を着た学生から年配の方まで幅広い世代の方々が東遊園地に集まりました。



（1 月 17 日午前５時頃の東遊園地からの様子）

23 年前の震災ということもあり、正直この追悼式に参加する人の人数はそれほど多くはないのではないかと思っていたのですが、多くの人で埋め尽くされた東遊園地の様子を見て、現地の方だけでなく、県内外の多くの人の心の中に 23 年前の阪神・淡路大震災という存在があり、その記憶が今後も忘れてはならない 1 つの出来事としてしっかりと残っているのだと感じました。

今回の追悼のつどいでは、「1995　伝　1.17」の文字を竹灯ろうで灯し、文字の周りを集まった方たちで囲い、黙とうをささげました。当日は、雨が降っていた為、集まった方たちがろうそくの火が消えないように灯ろうを守ろうと傘で覆う姿や、なんども火をつける姿が見られました。

（当日は雨だった為、竹灯籠の火が消えないように傘で灯篭を守る人の姿も）

その後、私たちは人と防災未来センターの見学をし、ＨＡＴ神戸で「ひょうご安全の日追悼式」に出席しました。この式典は、正午の鐘の音と同時に全員で黙とうし、兵庫県知事などの挨拶や、子どもたちからのメッセージなどの他、震災直後に神戸市の音楽教師がつくり、

今も歌い継がれている「しあわせ運べるように」の合唱を聴きました。また、最後に慰霊のモニュメントの前に参加者たちが献花をし、犠牲者を悼みました。このつどいには多くの団体が広場にてブースを出店をしたり、地震体験、緊急車両の展示が行われていました。

そして、この招へい事業の最後に「3.11 東日本大震災の追悼行事」に参加しました。東日本大震災以降、定期的に神戸の団体が名取市を訪れ、追悼行事を行っています。こうした被災地間の交流から、1 月 17 日にも「3.11 追悼行事」が神戸で行われています。「絆」や「夢」などのメッセージが書かれたおよそ３００本の竹灯ろうを『3.11』の形に並べ、東日本大震災が起きた 14 時 46 分に皆で、黙とうをささげました。

（竹にろうそく型の灯を入れる学生と住民さん）

（竹には１本１本メッセージが書かれた）

（「3.11 追悼行事」での黙とうの様子）

参加した学生の感想

東日本大震災も、今年で発生から７年になります。多くの人の心のどこかに残っている震災の記憶を自分の中だけにとどめておくのではなく、周りや次世代に伝えることで、次の震災に少しでも備えることが出来ると思うし、様々な立場から震災を考え直すことが出来ると思いました。東日本大震災を経験した私も、今後社会に出る１人として、自分の経験した震災の様子や、ボランティア活動をしてきた経験を通して、「被災地がどのように変化したのか」を県外の方や震災を経験していない次世代の子どもたちに伝えたいと考えました。また、阪神・淡路大震災の復興の過程で神戸の方が経験した事を学び、プラスの面は東北の復興の過程でも活かせるよう、マイナスの面は同じ失敗をしないよう教訓として学び、伝えていきたいです。

この招聘事業に参加して、神戸の活気あふれる復興への力強さと、震災伝承への取り組みを知ることが出来た充実した２日間となりました。是非また来年も参加したいです。

（人間心理学科　３年　C．I）

神戸に行ったのは２回目でしたが、前回神戸に行った時と違う視点で阪神・淡路大震災について学べたのでとても勉強になりました。

個人的に印象深かったのが、子どもの絵を展示していた「アトリエ太陽の子」とＨＡＴ神戸で出展していた「舞子高校」の環境防災学科のブースでした。どちらも震災を知らない世代が震災について学んだことを出展していて 23 年経っても受け継がれていると感じました。

（人間心理学科　４年　Ｓ．Ｎ）

東日本大震災以前に発生した震災からの復興やボランティアのありかた、20 年以上経つ被災地で震災はどう街に残っているのかなどを学ぶことが東日本大震災の復興、伝承に役立つと思い参加しました。

阪神・淡路大震災 1.17 のつどいのブース展示で見た、震災を知らない子どもたちの絵を見た時は驚きました。私たちも子どもたちや次世代への意識作りを考えなければと思いました。

（人間心理学科　４年　Ｒ．Ｙ）

文：人間心理学科　４年　伊藤ちひろ
（連携交流課　ワークスタディスタッフ）